(十二日夕刊)

磐城新聞

休刊　大祭日ノ翌日
定價　壹枚二錢　壹ケ月五十錢(郵税十錢)
廣告料　一行三十錢(指定二割増)
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

無駄を省け□□□

先づ能率の増進に

生活の様式が益々複雑になりました今日、どうすれば私共の仕事が樂に且よく出來るかといふことを研究する、ことは單に會社や工場で働く人ばかりでなく家庭にある婦人方にとつても亦極めて必要なことで、所謂能率の増進といふ言葉は今や私共の家庭生活の上にまで叫ばれるやうになつてまゐりました、では家庭に於ける能率増進とはどういふ處にあるか、最も手近な例をあげて見ますと先づ

黒板の利用

口でいふ代りに文字に書いて眼に訴へる方法は、種々の點に於いてムダを省く効果があります、例へば出入りの商人が御用を聞きに來た時など、女中が奥様と商人との間を幾度も往復して漸く用をたすことが出來るといふ風では時間と勞力に於いて大變不經濟であります、これは小さい黒板をかけておいで注文品を全部書いてれくやうにすれば非常に便利でありまして、用の無い時は屋號の下に「なし」と書いておきます、大抵の場合商人は其黒板を見たゞけで用をすまし、双方にとつて大變利益であります、女中を介しての交渉では、三人共時間をムダにする許りでなく、御用聞きを臺所に待たせておくやうでは、安いものを買ふことが出來ないのであります

置きごころ

例をあげて申しますと、停電の度毎にマッチやローソクを探し廻つて大騒ぎをする人がありますが、これは大變な骨折りであります而してこの骨折りは全くムダな骨折りであつて、物の置きどころを定めることに依つて省くことが出來るのであります。電燈がついたからと言つて、マッチを放り出しておくと再びこの骨折りを繰返さなくてはなりません

電話のかけ

電話をかける際には、交換手に局名と番號だけを言へば十分でありますが、世間には必要でもなることを話してゐる人がかなりあるやうであります、例へば「アノネ」とか「モシ〳〵」とか「X局のネ」といふ風にいろ〳〵付け言葉を使つてゐますが、交換手との問答もなるべく標準化して、ムダなことを言はないやうにすれば、交換手の仕事も樂になり從つて間違ひも少くなります

方風呂と御飯

能率をあげやうと思へば仕事に一定の標準を作つておくこと、即ち標準化するといふことは極めて必要なことでありまして、アメリカの宿屋で風呂をとつてくれと申しますと、女中は「湯は何度にしませう」と尋ねます、これは人によつてそれ〳〵好みが違ふから、豫め温度を尋ねるのであります何度にして下さいと言ふと、長い温度計を湯の中に入れて注文通りの湯を作るのであります、女中さんの頭腦もこの位科學的になつてくると、毎日のご飯たきなども出來損じをするやうなことはありません、これも彼地の話。ありますがご飯のたき方を數へますとをたきます、これは三度目三度目には丁度よい加減のには既に水加減や火加減を標準化してゐるからであります

極手近な處にさへ右の樣にいくらも合理化すべき問題があります、かうして家庭生活の萬事をた考へになり處理なされて行けば、いくらでも能率の増進を計る事が出來ませう

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

明日の吉凶

舊暦　十一月十三日
新暦　十二月十三日

▲一白の人　一難來る毎に英氣をますやうにはげむべき日▲二黒の人　競爭的に出づる失敗の因飲食注意すべし▲三碧の人　進むべき位置にゐながら引立ての縁に薄き日▲四緑の人　運氣晴れやらぬ日にてすゝむこと宜ろしからず▲五黄の人　心中動搖してまよひを生ずれば運氣かたむくべし▲六白の人　小流れもあつまれば末は大河となるを忘るゝな▲七赤の人　天氣次第にめぐり來る機を逸せぬやうにすべし▲八白の人　筋目たゞしく辛苦に屈せず復活の時を待つべし▲九紫の人　愁眉を開き來る然れど油斷すれば又塞がる

講談

幕末奇傑 高山彦九郎

(20)　中西洋々作　布施長春畫

不法の破門 (七)

「それを、又そなたはどうして知られたのぢやな」

彦九郎は、いぶかしく思ひ乍らさう訊ねました。すると、甚作は。

「へい、實は、今日、伊勢崎の松井先生のところへ、めえりやしたんでござえます」

「ふむ」

「ところが、あのお醫者さまは、因業なお方でごせえます。百々の佐吉でござねますが、お見舞ひ下せえましと申し上げました所、百々の佐吉とあつては、どうあつても行かれねえと仰しやるんでごせえます。そんな分らねえ話しはねえ、かういふ譯でいけねえかとたづねましたところが、實は、高山の若旦那が、一昨夜訪ねて來て、かう〳〵いふことをした、と、おることねね、ほざきやがつて……いゝね、その、あらうことか。

若旦那の惡口雜言、その言葉の間で聞けば、あいつは、百姓の分際で、江川先生のところへ通つてゐるさうなだ、あの樣な似而非儒者は、儒學を學ぶものゝ風上にもおけねえ奴、わしから話して、江川先生のところを破門さしてやつたわいと、かうぬかしやがつたんで……へい、それで、こいつはいけねえ、これがほんたうとあつちや若旦那樣に申譯ねえと思ひやして、すぐに江川先生のところへ行きやしたんですが、會ふことも出來ねえ、劍もほろゝの挨拶」

「うむ、さうか」

彦九郎は、も早松井正庵の惡行には、さして動かされはしませんでしたが、この甚作の自分を思ふてくれる心情には、却つて強く打たれました。

「いや、わたしの事は、云ふても詮ないこと。そなたの心やりは嬉しく思ふが、構はず放つておいて下され……」

「それは、さうと松井正庵は、訪ねてくれましたかな」

「いゝえ、來てくれる所ではごせえません、百々の佐吉とあつては、幾程金をつんでも、行くことはならねえと、かうなんでごせえます」

「ふむ、はゝて、不埒な奴ぢや喃」

叔父の長藏も深く嗟嘆しましました。

……が、この事が、彦九郎の胸に、一つの概念を與へました。

仁義の道を自分に說いてきかしてくれた恩師江川一龍齋が、その實際に於ては却つて惡徳ねしや松井正庵の味方であつたこと、さうして、何事につけても、意地惡くゐたる兄の傳藏のことなどを思ふ時家郷に對する愛執の念はすた〳〵にきり離されて了ふのでした。

思想と現實とのそろはない生活——いつの時代にもあり勝ちな、時代の尖端に生きるものゝ惱みば。又、彦九郎の上にも、掩ひかゝつてゐたのでした。

——私は、もつと廣い社會に出よう、そして、志を同じうするものどちと語らうて、かの潛位者徳川の政權に泣く民を救ひ、王政の輝かしい古にかへし奉らう運動の魁とならう、かうした決意が、いつか、根強く彼の心に巣喰うて居りました。その翌日、前後、一夜中、床の中にあつて何か悶々として考へてゐた彦九郎は、つひに何事か決意したらしく、その夜になつて一家のもの、みな寢靜まつた頃、そつと、自分の床を這ひ出しました。

そして、素早く武藝者風の旅裝束に身を包むと、隱居所の床の間に飾つてあつた。家傳の銘刀備前兼光の刀と、菊一文字の脇差しを腰にして、土間に下り立ち草鞋の紐を結びしめました……。

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

七五三祝へ
新着荷！
子供ドレス
可愛イデス!!!
安イデス!!!
二圓五〇錢
三圓
其の他
平町四丁目
ツルヤ
電一一四〇

◆十二日ヨリプログラム◆
松竹大作映畫
永遠の心
岩田祐吉、田中絹代…主演
日活連續大映畫
大岡政談大會
大河内傳次郎…主演
第一篇ヨリ最終篇迄 全部上映
料金普通
平館
電466

夜間診療
胃腸 黴毒
內科 十二指腸虫病 專門 內科部
淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸病性科醫院
(平南町電話一〇七番)

平町紺屋町
吉田眼科醫院

七五三御祝着
御花嫁御祝着特賣
金解禁と新安値
全商品の宣傳價
十二月一日ヨリ
人形七五三宮詣り陳列 (十一月二十五日ヨリ)
三井呉服店

上田醫院

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は 三四三番
サシミ

開店の御知らせ
美味で評判の イワキ食堂が
此度皆樣の御後援を受けまして
田町松月堂隣へ
イワキサロン
として移轉開店いたしました
名前通り清持よい客間で御座いますドーゾ御運びを……
平町で初めての試みであります酒場を特設いたしました
カクテールの……見惑
リキユウルの……芳香
東都一流のバーテンダーが腕によりをかけて御待ちして居ります
田町通り
イワキサロン

時は金なり
不正確な時間はいつも。御損です。正確で實用品腕時計各種新荷着？
時計の修理は
良く速くそして廉價に
懷中電燈 時計 眼鏡類 特安賣店
平土橋通りの
高橋時計店へ

耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一 (電話五五九)

新荷着ト商品全部値下
貴金屬　金側寶石入アンクル腕時計　十貳圓ヨリ
時計　クロム側寶石入アンクル腕時計　六圓ヨリ
眼鏡　十八金石入指輪　四圓ヨリ
蓄音器　精工舍裝〇S印目覺時計　貳圓
　精工舍製美術硝子置時計　貳圓ヨリ
　商事會社製八日卷掛時計　五圓ヨリ
外保險付領安品澤山入荷
歳末ノ御贈答品ヲ是非
皆様ノ
金光堂時計店へ
電七三六
◎時計蓄音器修繕ハ早ク良ク安ク致シマス

(入院隨時)
市原醫院
內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚病　市原三男
平町田町本通
電話一一四番

毛糸編物講習
生活改善は衣服から
消費節約も衣服から
發育盛りの小供には
毛糸編物が第一
夜間輕便文化器の
編物を無料講習致して
居ます、どうぞ
御遠慮なく御出で下さい
平町田町　藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

別れが嫌やさに妻の家に放火

植田町の小松敬一が平支部の公判

石城郡植田町大字植田字壽町三二小松敬一(三六)が去る二月頃內緣の妻木田キヨと同棲したが其後妻キヨは子宮病を惱み出し遂ひに八月末に養生の爲め實家に引取つた、敬一は其後も妻の實家に五日置き位に至り泊り込んで居た關係で妻キヨの病が思はしくない爲め双方の兩親間に別れ話が出來て十一月四日敬一が嫌や〳〵ながらもそれを承知したので キヨの荷物を實家に運んだ、敬一は其の夜媒妁人の家に泊つて居たがキヨに會ふべくキヨの實家に行つてキヨの室に常に出入をして居た障子を開け樣とした處、中から「誰だ」と聲をかけられ退る事が出來ず、表に廻つて「今晩は」と聲をかけたが「又、何用があつて來た」などと云つて仕打が冷酷であつたので遂に其家の風呂場から隣寸を持出して、臺所外の炭俵に火を放つたが其れを家人が發見して消止めたので大事に至らなかつた事件は平支部に於て放火未遂として昨日午後二時千葉裁判長係り武田檢事立會、酒井辯護人出廷の上公判開廷され事實の取調べがあり武田檢事より懲役三年の求刑があり酒井辯護人から執行猶豫の判決を求めて結審したが被告敬一は性來痴頑で正直な男であり裁判長の問に對して「キヨと一緒になりたいのはやま〳〵ですがこんなことになつてしまつては出來ません」などと云つて居た、言渡しは來る十六日

回春園の豫算を何故削減したか

苦境を語る川井園長

石城郡豊間村縣立回春園は緊縮の犧牲となり明五年度豫算案は前年度より實に二割五分の減額を示して居り縣會がこれを承認すれば醫員二名並に書記一名を始め數名の職員は解職され園長でも二名きり殘らないであらう、回春園はまさに運命の岐路、危險の尖端に立つてゐる

回春園は大正四年御大典記念事業として結核療養の目的を以つて設立に決定大正七年五月一日建築工事に着手工費三萬一千五百十餘圓を以つて大正八年末竣工翌九年一月十八日收容を開始しその後年々幾分づゝの改良擴張が行はれ收容患者の數も年々增加し昭和三年度末までに收容したる總數七百八十二名の多きに達し不治の病と言はれるにもかゝはらずこの內全治退院したるもの百九名略治及輕快(全快の見込充分にあり)二百十八名不變百六十四名增惡十九名死亡二百七十二名と言ふ成績を示し不治の病と言はれることから思ふと死亡率尠なく開設の意義も一般に認められてゐる

……◎……

果して縣が豫算の大削減を行ひ機關部である醫員全部の解職を斷行し單なる囑託醫を以て間に合はせんとするが妥當であるか否かや結核撲滅を期して居る縣がこの措置に出た事は一つの大きな問題と言はねばなるまい

——◎……

現園長川井重之氏は患者から生神として敬ひ慕はれて居る、力強い信念のもとに心から患者をなぐさめ治療して居る聖者そのものゝ氏が若しこゝに於て回春園を去るとせば五十名の患者が如何樣に悲しむであらう。また回春園のみの傷手でなく稀に見る典型的醫學者を失ふこととなり本縣にとつて大きい損失ではあるまいか

……◎……

十一日午後一時病室を一巡どうしましたと患者を慰めて園長室に歸つた氏は寂然として語る

この際意見を申し上げられない事を殘念に思ひますこゝに居るのは患者も職員も皆淋しい人達です淋しい人達が互になぐさめ信じあつて心強く生きそこに湧き出づる感激にはげまされて日を送つて居るのです、私が參りましたのは創立された大正九年で當時は入園患者より職員の方が多い位でした、その後年々幾分の改善が加へられ入園希望者も殺到しいつでも定員の四十九名は欠けることなく中々入園することが出來ない次第です

四倉漁港 委員出福

實現の猛運動

石城郡四倉築港期成同盟會々長町會議員小湊宗吉、副會長長谷川德次郎、委員町會議員吉田壽三郎、草野吉藏、門馬信太郎、堀田粂次郎、鈴木牛吉、太田彌八、鈴木昇太郎の九氏に本日揃つて出福、縣當局始め政民兩支部及び各新聞社等を歴訪し築港實現促進の陳情運動を開始したが一行中某委員は「四倉港の修築問題で我々は決して見榮や張りで運動してゐるのではありません、全く我々漁民の死活をかけた大問題で修築の見込が何してもつかなければ町民は生計の資を段々すりへらされて野垂れ死をするか、家財道具を賣り拂つて夜逃げするより外ありません、この點、よく當局者にも政黨關係にも御諒解願つて置きました」と眞劍に語つてゐた

猿の如く巧妙に喜一また脫走

横須賀署に捕はれて

大浦村の大工

石城郡大浦村字狐塚小橋六三當時住所不定大工職前科三犯若松喜一(三三)は窃盜被疑者として横須賀署に捕はれ留置中去る九日午前一時頃看守の宇津木巡査が同夜引致して來た擧動不審者を入れんと檻房の鍵をあけた際同巡査を突き退け猿の如く飛び出し署員便所の窓をくゞつて折柄大警戒中の密行網をくゞりぬけ行方をくらましたが同署では狼狽し連日晝夜兼行の密行を行ひ嚴探中である

若松は去る九月十六日懲役三年を言渡され福島刑務所で服役中十月八日午後七時頃用便を裝ひ便所內に獄衣を脱ぎ棄て裸體となつて汲取口から脫出し板塀を突き破つて逃走嚴重な警戒網を巧みにのがれ名古屋に入り込み各所で窃盜を働き去月廿七日名古屋市笹島署に捕はれ卅日裁判所へ護送の途中巡査を突きとばしてその顚倒したすきに繩をかけられたまゝ巧みに逃足した全國へ手配中の重大犯人で

その後横須賀に入り込み去る六日夜安浦町三二銘酒屋いろはこと畑中榮次郎方でプラチナ時計鎖價格四百卅圓を窃取した外十數ヶ所で巨額の窃盜を働き安補町の魔窟に入りびたつてゐたのを去る七日夜横須賀署の長野風俗係が不審とにらみ引致したものである

石城郡下の米價 依然ヂリ安

引きつゞく不景氣に

農民塗炭の苦

石城郡地方における產米の出廻りは例年の最盛期十二月中旬より約一ヶ月遲れの明年一月中旬頃と見られ從つて米價は產地會津中通りにおける格安に刺戟されて出廻り前にぢり安をたどり現在は未檢査米が一駄十九圓二三十錢檢査米四等にして二十一圓前後であるため一般農民は減收に悲觀し更らに格安で悲觀するといふみじめな狀態に陷つて居るが年の瀬を控へて居る關係から背に腹は替へられず中以下の農民は安値などにはかまいなくどし〳〵手放しするの傾向にあるので結局最盛期ころまでには未檢査米は一駄十八圓臺を割るやうなことに至るのではないかと商人筋では警戒をしたり樂觀したりして居る右について米檢平支所長は語る

會津中通りの產米が出廻り末期にあつて格安を唱へてをるためその餘波を受け未だ出廻り最盛期に入らぬ石城米が安値を蹈んでをる事は憂慮に堪へない石城地方の產米は二割方の減收であるから例年に比すならば幾分高値の氣配にあるべきで却つてヂリ安とは農家の人々に同情する今年の米價安は要するに鑛入當時の水害が直接原因をなし乾燥不充分にあるからで今後は充分乾燥の上米價恢復に努力されたい云々

石城の礦業

淺堀願ひを許可

本郡下に於いて鑛業法により試掘願許可したる分左の如し

▲鑛區所在地石城郡川部村、山田村、田人村、鑛種石炭、面積三三〇、〇〇〇坪、鑛業權者東京府北豐島郡西巣鴨町中村進明▲鑛區所在地石城郡川前村、鑛種金、銀、銅、面積七二八、五九〇坪鑛業權者東京市本郷區湯島兩門町荒井八藏▲鑛區所在地石城城永戸村、鑛種金、銀、面積八三六、八〇〇坪、鑛業權者石城郡平町柏原秀藏外二人▲鑛區所在地石城郡草野村、神谷村、平窪村、鑛種石炭、面積九六四九〇〇坪鑛業權者神奈川縣鎌倉郡鎌倉町數江合資會社

平町米値下

一キロ一錢づゝ

石城地方の農家は年の瀬に迫り持米を手離さぬ譯にゆかず一方米穀商としても仕切れず必ず崩落が來るが買はぬ譯にもゆかず値下協定にいとまなき狀態で平町米穀商組合では十日から白米値段を左の如く何れも一キロにつき一錢方値下げした

上白米廿四錢を廿三錢、中白米廿三錢五厘を二十二錢五厘、並白米廿三錢を廿二錢、白糯廿七錢を廿六錢

縣道を改修して自動車と郵便直配

關係村民が熱心に

平。三坂街道實現

平町より三坂に通ずる縣道の所工事費一千圓と人夫五百人の寄附が纏まつたので改修問題は好間、箕輪、永戸、澤渡、三坂の各村が委員を擧げて速進運動對策中(委員代表)大和田粂雄、平山藤吉、合津代吉、三坂、好間、箕輪の各村長等出願本郡選出六縣會議員と共に知事に會見陳情したが工費は約五千圓の豫定で縣當局も地元民の熱誠に動かされ是非明年度豫算に繰り入れ實現の意表を表明したので委員は十一日歸村したが明年春迄には着工するものと觀られてゐる、而して右改修工事が完成すれば縣案の乘合貨物自動車の運轉と更らに郵便物の直配も容易に實現し得るので山狹各村の將來に大なる福音を齎らすものであらう

草野農事組合

草野村農事組合では來る十四、十五兩日草野村大字馬目龍造寺內に於て農產品評會を行ふと

自動車顚覆

乘客は無事

石城郡平町自動車部運轉手佐藤喜男(二四)は去る十一日午前七時自動車を運轉し平町に向ひ疾走中飯野村大字白土字南白土八つ坂地內に差掛り惡道路の爲め顚伏したが乘客者は無事であつたと

十日間の玉高

僅か三本の藝技

新田町の閑散

平町地方の景氣の如何を如實に表現する新田町花柳街の昨今の狀勢を聞いて見ると此の十二月に這入つてから急に閑散さを加へ實に想像以外の不景氣に藝者置屋も料理店も淋しきつてゐる去る一日より十日までの行司につき現はれた所によると現在新田町にゐる百四十餘名の藝者中十日間に二百本を出たものは僅か五六人にすぎず八十本から百本までのものが四五十名甚だしいのになると十日間に三本きり出ないのが十餘名あつた現狀を見て如何に閑散であるかゞ窺はれる

神谷農事講習

石城郡神谷村農事試驗場石郡分場では十五日午前九時から同場に於て農事講習會を開くが講師は矢ケ崎技手で蔬菜軟化栽培についての講演があると

逃げた鮮人

平署へ捜査願ひ

朝鮮京畿抱川郡西面李弘漢(三八)は去月三日京城府金發圭から依頼された籾二萬斤を他に千四百圓で賣却そのまゝ姿を晦ましたが石城地方に入込んだ形跡あるので十日平署に捜索方願ひ出た

●●●●●イワキサロン●●●●●

平町田町大通り松月堂隣りに開始したイワキサロンは元時社下にあつたイワキ食堂の後身である東部一派のバーテンダーが腕によりをかけて調理するものは美味と廉價が自慢で殊に同サロンは女給がなく東京野地製作所製の擴聲器を設備し音樂を放送する筈爲めに家族伴れの客筋に歡迎され賑つてゐる

警察電話線を切斷

平署犯人嚴探

石城郡好間村大舘地內に架設してある平本宮署間警察電話線を十日午後九時ころから十一日午前五時ごろまでの間に切斷したものあり平署では犯人嚴探中であるが年の瀨もいよ〳〵近づくに隨ひ不良の徒が横行するので歲末取締りを嚴重に行ふこととなつた

土木課長來平

鮫川江筋視察旁々

平水道工事研究

淺見本縣土木課長は十一日夜來平松ケ岡公園尼子亭に投宿十二日は郡南鮫川江筋の現狀視察をなし同日平町に引き返して一泊明十三日は懸案の平町水道擴張工事の現狀を視察し二部町議間の主張してゐる變更案につき比較研究をなすこととなつたが水道工事は既に國庫の補助も決定した今日土木課長の視察は重大な關係あるものとして注目を惹いてゐる

藝者お灸

密淫賣で檢擧

平町新田の橋屋抱へ藝妓松崎チヨジ(二二)は十二日午前一時頃同田町某料理店で密淫賣したる事發覺し平署で取調中

勿來消防電燈

勿來消防組第六部(九面)は同地火の見腐朽せるため鐵筋コンクリートに同地山上に建設し其先端には電燈をつけて海船の目標とせしむる筈で工費三百餘圓である

丸昌ホール

連日の大盛況

平町南町丸昌ホールは開業以來各方面から利用多く多忙を極めてゐるが今十二日は平署管內林野保護組合長の懇親會があり十三日は常磐炭礦打合會更らに二十日頭に平町米穀商組合の總會がある筈である

●訂正、十二日第二面常磐の炭價は原價維持の方針と題する記事中二十行目(値上をみせてゐる)と有るは(値上をみせぬ)の違ひに付き訂正す

湯本祝賀延期

湯本町地下採掘勝訴祝は既報の如く十七日午後一時から同町劇場に於て行ふはずであつたが十八日午後八時同町公會堂で行ふ事に決定した

河北新報社長

仙臺河北新報社長一力健次郎氏は三十年の新聞事業に一身をゆだね過般死去した、これが後任社長として同氏の愛息一力次郎氏が社長に就任した

高久農作品評

高久村村農會では來る十五日同村小學校に於て青年團と聯合し農藝品評會を開くと

植田町の夜警

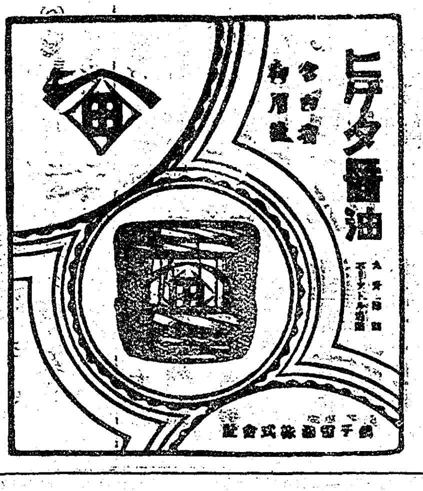
植田町夜警について七日植田警察署內に同町區長及世話人二十四名を召集し懇談の結果從來の各町內に於ける鳴子等を排し同町消防組交代に出動し密行夜警を計る

評判ノよい專門藥
●心●臟　一圓　二圓　三圓
平五　山野邊藥局

紅燈街

植田町藝者組合長牧野ノブ女は大正四年以來十五ヶ年組合長を勤め同町花柳界の恩人ともいふべく盡瘁する處多かつたが今回老齡職に堪えずとの理由で組合員の留任勸告を辭職したので後任として新油屋事駒橋イチ女が綠川德次郎氏を代理としてねられた。

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番


ヒゲタ醬油
銚子醬油株式會社

平町田町
特約店　廣瀨支店
電話五四番

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一〇番

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルツー、ブラング
マルソー、ルージ
生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　西村屋藥舖
たぬなし三番